



第 30 号  
2002 年 10 月

# ネパリ・バザーロ だより



ベルダレルネーヨ通信

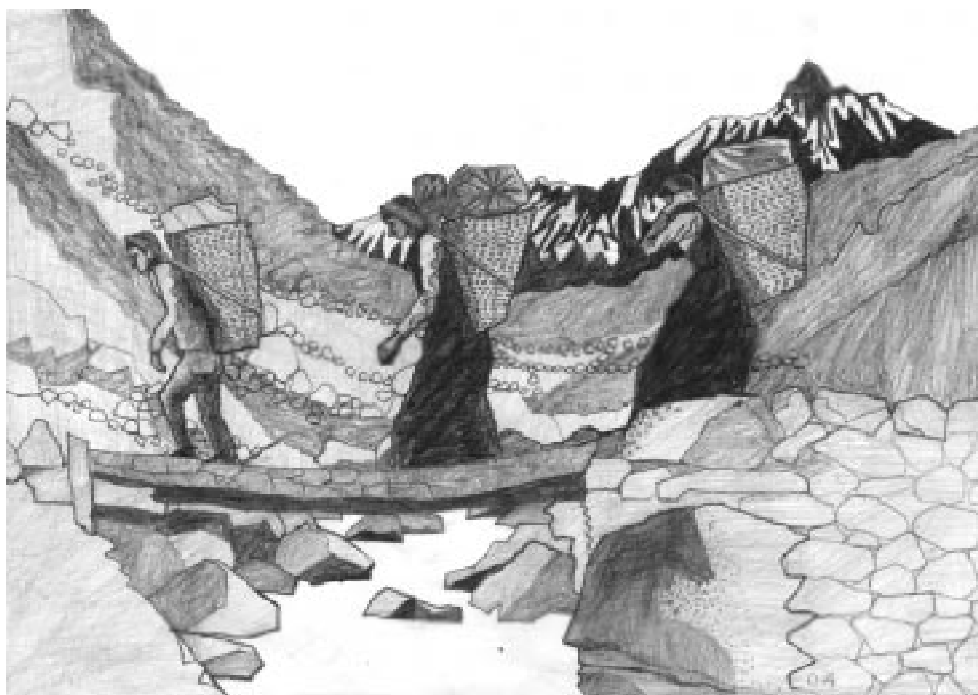
ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンディクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取り組めたらというのが私たちの願いです。母体となる市民グループ（NGO）、ベルダレルネーヨ（ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会）のトレード部門として1992年から活動しています。1998年2月からは、地球市民かながわプラザに直営店「ベルダ」をオープンして第三世界からの品々をご紹介します。

## フェアトレード 活動紹介 ニュース・レター



ネパリ・バザーロは、IFATに所属し、国際的な協力を得ながら、フェアトレード運動による社会貢献を目指しています。

IFATは、フェアトレードの国際組織で、ILO（国際労働機関）のオブザーバ、IFOAM（国際有機運動連盟）の准会員でもあります。



## 特集

フェアトレードの現場とその想いシリーズ その9 特別記事：2002年秋冬カタログ同時掲載特集

### 「ネパールの手漉き紙で包む安全な住まいづくり」 土屋完二 / 編集部 ..... p. 2

ヒマラヤの山々に住む人々の生活改善と私たちの安全な環境創り

- |   |              |             |
|---|--------------|-------------|
| ◆ 「フェアトレードに未来はあるか」学習会報告                     | 魚谷早苗 / 矢島万知子 | ..... p. 6  |
| ◆ お茶の郷博物館の展示協力と料理教室                         | 北山詠美子 / 太田昌治 | ..... p. 7  |
| ◆ サンギータさんの奨学金と子どもたちの近況                      | 魚谷早苗         | ..... p. 8  |
| ◆ 海外から：FINE (FLO, IFAT, NEWS!, EFTA) の新しい動き | 土屋完二         | ..... p. 9  |
| ◆ ネパリでの研修を終えて①、沖縄から / 訪問記                   | 大城あけみ / 阿部陽子 | ..... p. 10 |
| ◆ ネパリでの研修を終えて②、ネパールから                       | ジ・アリーナ・ジュレスタ | ..... p. 11 |
| ◆ お知らせ・編集後記                                 |              | ..... p. 12 |

&lt;2002 年秋冬号カタログ同時掲載企画&gt;

## ネパールの 手漉き紙で包む安全な住まいづくり

ヒマラヤの山々に住む人々の生活改善と私たちの安全な環境創り

土屋完二 / 編集部

極西ネパールの山深いヒマラヤの麓。ここに、厳しい生活を改善するために紙漉きに取り組む村があります。その紙作りと、私たちの健康は一本の糸で結ばれていると言ったら、信じてもらえるでしょうか。

ネパールの極西部。カトマンズからネパールガンジまで飛行機で1時間。そこから車で1日走ってダンガリに到着。更に車で山側へ2日間、そして徒歩2日かけてやっとバジュラに着きます。山また山の奥、聳え立つヒマラヤの麓の地です。そこに住む人々の生活を支える貴重な収入源に手漉き紙の生産があります。その紙は、自然素材100%。今では、世界を見渡しても、なかなかみつからない貴重な紙です。私たちの身の回りでは、シックハウス症候群といわれる、化学物質の便利さがもたらした落とし穴である健康被害が目立つようになりました。そこで、今、自然素材を利用した家づくりが注目されています。自然素材の手漉き紙を守ることは、私たちの健康を守ることに繋がり、また、小さな生産者の支援という国際協力に繋がります。遠いと思われる国のことを考えることが私たちの生活の安全とも密接な関係があることを実感できるときでもあります。



団樂しているバジュラの女性達

便利さがもたらした落とし穴（ナチュラル100% ネパール紙の効用）

（株）テクノブラン 代表取締役 佐藤清（1級建築士）

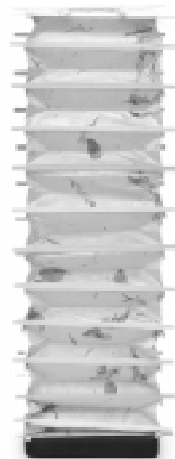
佐藤さんは建築士として活躍する傍ら、大学で教鞭を執り最新の建築技術を学生に教え、また、雨水利用の建物を建てる協力をバングラデシュで実施するなど、広い視野にたって持続的開発を考え、国際協力、特に社会的弱者の自立に向けて熱心に取り組んでいる。また、女性の社会進出にも熱心である。

その佐藤さんより、ドイツ事情を伺った。

「ドイツでは、視野の広い専門家が育っています。多くの建築家が、生態系を如何に守りながら建物を作っていくかを考える傾向にあるのです。例えば、サッカー場を作るとしましょう。ゲームを昼間のようには明るい環境で行えるようにしようとすると、1,500ルクスは必要です。しかし、それが周りの生態系に与える影響は大変大きいので、極力、その明るさを抑さえ、例えば、1,000ルクスにしようと相談するのです。日本であれば、なるべく明るくしようとするでしょう。また、ドイツの専門家の間では、フェアトレードへの意識、配慮もあり、好んでその



ロクタの手漉き紙で作ったランプシェード。その光が目優しい。住まいも優しく包みたい。



### ◆ロクタ収穫の季節

実りの秋の10月、太陽が見え始める頃、いくらかの家事とご飯と豆の朝食を済ませた男達は、ロクタと呼ばれる木の皮を取りに国有林へ行く支度を始めます。秋の収穫は全て終わり、彼らの野良仕事はなくなる頃です。ネパールで一番大事なダサイン祭が終わると、ロクタ収穫の時期を迎えるのです。

東ネパールのエベレスト山麓に住むシェルパ、同じく東ネパールのリンブーとライの人々、そして極西ネパールに住むチェトリの人々は、千年以上もの間、このロクタから紙を作り続けて来ました。村の人々にとっては、ダサインはロクタ収穫の始まりを意味しているのです。

ネパールの高地の森に育つ細い灌木のロクタの皮は、ネパールでは、最も重要な古来からの紙の原料として使われてきました。1,200～3,000mのネパール丘陵地の森に育つこの紙は、その強さ、魅力的な質感、耐久性、虫の付き難さなどから高い評価を受けています。ラッピングやカレンダー、ブロック・プリント用としてカトマンズのギフトショップでも売られていますし、また、カラフルなグリーティングカードとしても利用されています。最近では、自然で健康にも良い紙として注目され、ランプシェード、建築内装にも用途が拡大しています。



昔の清流を取り戻した川で遊ぶ子どもたち（ドイツ）



出荷準備をするバジュラ郡キルパタ村の人々

## ◆ロクタの歴史とバジュラの生活

ロクタは、ネパール古来の紙の1つで、古いヒンズー教や仏教の経典、王室の記録にはヤシの葉がロクタの紙が使われてきましたし、現在でも、登記関係の書類はこのロクタの紙が利用されています。同じ文化圏であるインドでは、イギリスから化学処理の紙が入り、生産されるようになると、地場産業の経営は悪化し、伝承遺産としての紙作りは消え去ってしまいました。ネパールでも、1850年、時の首相コンバハドールナが、大量生産の紙をイギリスから輸入し、ロクタの紙生産は大打撃を被ったといわれています。

それでも、高地の村の人達は、自らの手作りの紙をささやかながら記録用や紙凧作り、包装紙にと使い続け、チベットでもこの紙産業は細々と生き続けてきました。チベットの僧院では、金属の彫像や絵巻物にとってネパールの紙ロクタは重要な物で、彼らの膨大な経典に使われていました。その後、チベットが中国国境に併合されその国境が閉鎖されてしまった後、ネパールの紙産業は、厳しい時代を迎えました。

ロクタの紙作りは無くなった様にみえましたが、1960年代に、エキゾチックなみやげや新しい体験を求めて訪れたヒッピーたちがネパールにくると、彼らは素朴で「有機の」ロクタ紙に魅せられ、その需要により、数年のうちに、ロクタの紙は店頭に並ぶようになりました。

ような製品も採用しています。更に、環境を汚さないという意識があるのです。

ネパールの手漉き紙は、化学物質を使用してないという点で「安全」の代名詞です。安全な建物設計には大変に大切なものです。私たちは、いつでも、あまりにも質の高い紙、均質性や混じり物のないものを求めています。その落とし穴は必ずあるものです。例えば、経典の紙は大変に質の高いことで知られていますが、和紙を作るためには、繊維を繋ぎ合わせるために糊が必要で、トロロアオイが使われます。腐りやすいので、ホルマリンを使いますが、その物質にアレルギー反応を起す人もでています。

化学物質が入っていない安全な紙は、手に入れることが難しくなっています。必要以上の品質を要求しないことが、私たちの健康を確保するためには必要です。

ネパールの手漉き紙がいつまでも安全で、遠い山奥の人々の生活を支え、私たちの健康にも害のない、環境に優しい社会創りに役立っていくことを心から願っています。」

ネパール・ウーマン・クラフトの紙作りの遠方の拠点、バジュラにある工房の付近には、5つの小学校と2つの中学校があります。中学校の女性の比率は22-28%。先生10人に生徒250人位です。バジュラ全体の識字率は、女性で8%。男性と女性でもっとも格差の大きい地域のひとつで、それだけ、生活も厳しいのです。

その村の男達は、ククリ（刀）と小さい草刈り鎌と紅茶の入れ物を持ってでかけます。幾人かは土地を持たず、幾人かは小作人であることもあります。この地域は、土地無しか、十分に収穫をするにはあまりに小さな土地しかない人々が多いのです。彼らは、ククリでロクタを刈り取り、また、その皮を剥く作業をします。刈り取りは、ロクタの根を残すようにします。数年後また伸びた良い枝に成長するようにです。

山の中では、時々タバコと飲み物で休みを取り、その間に他の生活に役立つ植物も探します。彼らは冗談を言い合い笑い合って仕事をし、午後遅くなってロクタの皮を大きな束にします。また枝も束ねます。枝はたきぎになります。数日後、皮を剥き乾かしたロクタを紙作りができる山小屋まで運びます。そこで、暖かく日当たりの良い場所を使って紙作りをします。薪をくべ、大きな銅の煮鍋をセットします。樹皮を灰<sup>注</sup>で煮て、繊維を柔らかくし、余計な有機物を取り除きます。

（注）町に近いところでは、苛性ソーダで煮る。



ロクタを切り、皮を剥ぐ。



ドイツ、カールスルーエ市にある小学校の体育館。体育館の建設によって失われる砂丘の緑地を、屋上に再現している。



ロクタの皮を煮  
ているハーク君

17才になるハーク君(Hark Bahadur Budha)は2年前にSLC(高校卒業資格)に合格して、ここで働いています。成績は優秀だったので、カレッジにも行きたいという希望がありましたが、家庭にその余裕はなく、すぐ働くことにしたのです。でも、働く場所を探すのは大変です。

煮るのは時間がかかります。樹皮が柔らかくなると、ナイフで器用にこすって、樹皮の汚れやしみを取り除きます。樹皮の内側だけを使います。樹皮を再び煮て繊維を柔らかくし、石版の上で木槌で叩いて細かいパルプにします。パルプを何度も洗い、最後に一定量を水に浮かばせ、網を張った枠に薄く広げます。枠を、注意深く水から持ち上げ、水を切り、日に干します。数時間後、ロクタの紙を枠からはがします。紙を束にして、村まで運びます。そこで収集倉庫に運び、品質で分類をします。紙は再び梱包され、最終目的地、カトマンズ盆地のネパール・ウーマン・クラフトに運ばれます。

#### ◆街の工房で製品作り

ネパール・ウーマン・クラフトの工房では、まだ粗い紙から細かい工芸品の仕事に移っていきます。カード、封筒、および他のギフト商品をデザインし、出荷されるまでには数多くの工程を通ります。様々な形に加工され、切り分けられて行きます。紙のうちのいくつかは染色され、いくつかは絞りに染められます。植物染料も使います。シルクプリントや独特なウッドプリントを施すものもあります。カット、貼りつけ、接

着や他の工程を経て愛らしいカードが出来上がっていきます。

#### ◆ネパール・ウーマン・クラフト(Nepal Woman Craft)

女性の自立を願う紙製品を扱う団体として1997年に設立されました。その代表は、シャンティ・チャダさん。女性の技術開発センター(WSDC)の理事を経て自らの力で設立しました。カトマンズを中心に、遠方の人々の生活も考え、活動に力を注ぎました。

昨今、女性起業家協会の代表を務める傍ら、ネパール商工会議所女性局長として忙しい日々ですが、女性たちが互いにネットワークして社会的地位を向上していくことの大切さを訴えながら、自らもそのネットワーク創りに努めています。裕福な家柄に生まれたことを活かし、その豊富な海外経験を元に、デザイナーとして、女性起業家として、新製品に取り組みながら生産者に継続的な仕事を提供するべく活動しています。

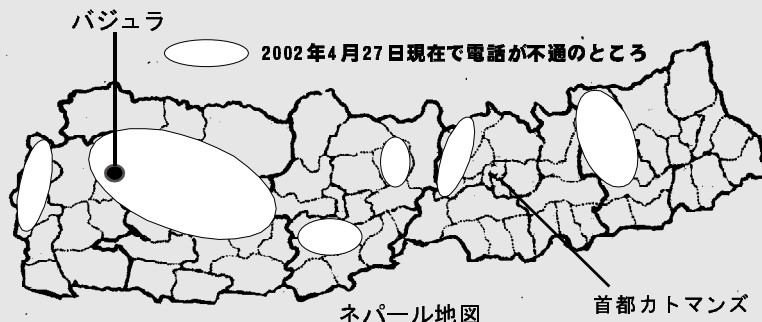
ネパール・ウーマン・クラフトの紙は、カトマンズ郊外ゴカルナと、極西ネパールのバジュラで生産しています。ネパールは緊急事態宣言下で、政府側との対立から武装過激集団により電話局が爆破されるなどより厳しい事態になっていますが(詳細通信29号参照)、下のネパール地図に示された所は、破壊されて電話が通じない地域です。紙漉きをしているバジュラも含まれ、ネパリー・バザーロがお付き合いしているヘナのダン、コーヒーのグルミも電話が通じない状態です。

識字率など、発展過程を示す尺度(基本39項目を含む48項目)で、ワーストに位置付けられていますが、自然に恵まれ、ロクタ、ハーブ、ヘンプ等、再生産可能な自然素材の市場拡大が期待されています。

		首都(%) カトマンズ	極西(%) バジュラ
	安全な水の確保	50	93
小学校	女性の先生比率	49	8
小学校	女子の比率	47	25
小学校	女子落第率	11	21
15才以上の識字率の比較	男性に対する女性の割合	74	15

バジュラの状況、水は豊富だが、他の項目で厳しい

#### 緊急事態宣言下の状況



ネパールは緊急事態宣言下で、政府側との対立から武装過激集団により電話局が爆破されるなどより厳しい事態になっている。下のネパール地図の網目の所は、破壊されて電話が通じない地域である。紙漉きをしているバジュラも含まれ、ネパリー・バザーロがお付き合いしているヘナのダン、コーヒーのグルミも電話が通じない状態である。

識字率など、発展過程を示す尺度(基本39項目を含む48項目)で、ワーストに位置付けられているが、自然に恵まれ、ロクタ、ハーブ、ヘンプ等、再生産可能な自然素材の市場拡大が期待されている。

**ネパールの手漉き紙は、100%自然素材で、単価も安く、同時に国際貢献にもなる!**

自然素材・古材ギャラリー 住工房 なお 鈴木直子  
—環境をテーマに衣・食・住に情報の提案と発信をしています—

鎌倉で有名な長谷観音、大仏を通り、トンネルを抜けると道路際に見える落ち着いた佇まいの2階建てギャラリー兼喫茶店の一軒家が住工房「なお」さん。

住宅メーカーで一戸建て、マンションのリフォームを専門に働いてきた経験から、そこでの疑問を補うことも含めて現在のお仕事を始められた。「業者の扱う自然素材は、55%以上材料が含まれていれば良いことになっているので、実際には裏打ちされている所に有害な物質を使っていることが多いのです。その点、ネパールの手漉き紙は、100%自然素材で、単価も安く、同時に国際貢献にもなるなど注目すべき点は多いですね。好みにより、下貼りをしなくても使えます。」

手漉き紙の難点は、「水に弱いこと、汚れに弱いことでしょうか。でも、それが和紙そのものの風合いに



事前に予約すれば、玄米定食を食べながら自然素材の店内を満喫できる。連絡等詳細、2002年秋冬カタログP6参照

もなるんです。上からまた貼る方法は更になり、良いことですし、柿渋を塗る方法もあります。」

自然素材は高いと思われて躊躇する人もいますが、「必ずしも高いとは限りません。素材により坪単価が変わるので、予算に合わせて手漉き紙を1枚貼るか2枚重ねるかという選択もできるからです。」

近々、リサイクル法で建物の規制が始まると廃棄にもコストがかかり、新建材は廃棄コストが高くつくので、更に、自然素材のメリットが注目されている。

**ネパールの手漉き紙を使うという点で、フェアトレードを実践しています。**

環境保全型企業 有限会社 エコ・オーガニックハウス 代表 荒川瑞代  
—安全な住まいづくりをお手伝いします—

自分の家を2度に渡り建てた経験から、安全な住まいを純粋に考えて造ることが如何に難しいかを実感したことが現在の事業取組みのきっかけになっています。安全で持続的に採れるものを使った材料を提供しています。そのためには、必ず生産現場を訪問するようにしています。「現場を訪れて、状況を知る」ということや「安全性を常に考えている」点で、フェアトレードと共通していますね。ネパールの手漉き紙を使うという点では、当にフェアトレードを実践しています。

ネパールの手漉き紙の魅力は、第一に安全、第二に安価(コスト削減)です。また、手漉き紙ということで丈夫ですね。お客様からの要望を建築家が汲み上げて、使われるようになってきています。ワークショップを開き、自分達でも安全なノリを使って貼



事務所2階のショールームには、手漉き紙で貼った壁が展示されている。連絡等詳細、2002年秋冬カタログP7参照

ることを試しています。一般には、二重に貼る「ふくろ貼り」が多く、貼りの専門家として表具屋さんが貼ります。縦横を合わせてきちんと貼るだけでなく、自由に貼りあわせて自然の美しさを演出するのは、素人にも貼れて一考の価値ありです。環境保全のために活躍している方々とネットワークを組んで、大きなうねりを作りだせたら幸いです。

**開発教育教材にいかがですか?**

ロクタの紙作りは子ども達にも、学校の教室でも簡単に体験でき、環境や健康を考える教材としてお勧めです。

更に、紙を通して生産している人々のことを考える国際理解教育の入門としても良い材料です。

このキットを開発教育教材として是非お役立てください。詳しいこととお知りになりたい方は、事務局までご連絡下さい。

TEL:045-891-9939 FAX:045-893-8254  
E-mail: nbazaro@a2.rimnet.ne.jp

**紙作り教材紹介**

このキットだけで、紙漉きが体験できます。ロクタは、糊を必要としないので、100%自然な紙をお部屋で気軽に作ることができます。1個のペーパーキューブで20枚以上作れます。

**「ロクタ紙作りキット」  
手漉き枠(A5)と紙の原料**

販売:ネバリ・バザーロ  
定価:700円(税別)4-9304  
(枠と原料1ヶ付)

**「ペーパーキューブ」****ロクタの紙原料**

販売:ネバリ・バザーロ  
定価:200円(税別)4-9304-2  
(学校教材として価格を抑えていますので、少々難有りはご了承下さい。)



手漉きセット

## 「フェアトレードに未来はあるか？」学習会報告

魚谷早苗 / 矢島万知子

今年のフェアトレード・デイは、5月4日でした。国際フェアトレード組織連盟 | F A T が働きかけて世界同時に行う史上初の出来事でした。日本では、5月をフェアトレード月間と定め、私達も、5月4日の映画鑑賞、5月26日の学習会、ディベート形式によるフェアトレードを考える企画を実施しました。宣伝をあまりしなかったにもかかわらず、多くの方に参加していただき、有意義な時間を過ごすことができました。

### ◆「フェアトレードに未来はあるか」を考えた経緯

フェアトレードは、日本でも大分注目されるようになってきたようです。でも、欧米に比べるとまだまだです。もっと広く人々に知っていただきたいと思案している今年の3月に、フェアトレードを紹介するテレビ番組が企画されました。ちょうど、私達が公開セミナーを開く直前のことでした。代表の土屋春代が出演しましたが、その生番組で、司会者からダイレクトな最終結論としての質問がありました。

**「理論はいいけれど、本当に日本で理解され、広まるのか」**(詳細、2002年秋冬カタログP 51 参照)。

メンバー、協力者にとって、その命題は良い勉強の機会にもなるので、学習会のテーマにしました。

### ◆ディベートは良いトレーニングの機会

そこで、「未来がある」チームと「未来がない」チームに分かれて議論することで、フェアトレードの認識を深め、また、その課題を前向きに考え、活動に活かしていくことにしました。

「未来がある」チームは責任重大。その「ある」チームは、日本で研修中だったジャリーナを含むスタッフ、ボランティアなど5名。心を鬼にして否定する役割の「ない」チームもスタッフや協力者6名。更に、フェアトレードに携わっている団体の方にも加わっていただきました。どちらのチームも事前の打合せに議論を重ねて当日を迎えました。

### ◆陪審員は「聴衆」役の学習会参加者

チームメンバー以外の参加者23名は判定のための○×の札を持つての「聴衆」となりました。両チームが



「聴衆役」の参加者



話に熱が入る未来「ある」派

直前の打合せをしている間に「聴衆」に聞いたところでは、23名中20名が「日本でフェアトレードが広まる」と考えていました。

さて、そんな聴衆を前に、ディベートの始まりです。まずは「ない」チームからその理由が述べられました。「未来がない」とする理由は、大きく分けて3つあげられました。①値段が高い、②商品の質が悪い、③理念が分かりにくい。

「ない」チームの「値段が高い」という意見に対し、「ある」チームは、公正な賃金を支払うためであり、価格を抑える努力はしていること、安さだけが全てではなく、健康・手作りのオリジナリティ・生産者の人権などの付加価値にお金を払う意識が日本でも増えていることを述べました。

「商品の質」については、質向上のため、チェックや修理を行い、生産者へ改善点をフィードバックをしていること、フェアトレードという形で生産者が対等な関係で自信を持って作ることで、今後、更に質が向上すると語りました。

### ◆消費者意識が明日を創ることを実感

こうした価格や品質の説明も消費者が理解してくれてこそ支持されるもの。「フェアトレードは分かりにくい」という「ない」チームの主張に対して、「ある」チームはニュースレターなどで情報を詳しく伝えていること、その人なりに理解度が違っても地道に理解者を増やしている、という意見が出されました。

さて、間に作戦会議の休憩を挟んで40分の討議を終え、聴衆に判定をしていただきました。どちらのチームの意見が論理的で筋が通っていたか…結果は、残念ながら「ない」チームの優位となりました。

終了後、限られた時間で伝えることの難しさ、短絡的な理解による一時的な「ブーム」はかえって危険なこと、その場限りの「お情け」と継続的な「共感」の違いなどが語られ、消費者意識を上げ、フェアトレードをしっかりと根づかせよう確認しあいました。



作戦を練るディベート参加者

## お茶の郷博物館展示協力と料理教室

北山詠美子 / 太田昌治



料理教室で忙しく動きまわるスタッフと参加者

## ◆お茶の郷博物館のネパール展協力

2002年6月1日から7月7日まで静岡県榛原郡金谷町にあるお茶の郷博物館が企画したネパール展「お茶と山々と神々」の準備のために、2002年春、お茶の郷博物館館長小泊さんがネパリ事務所までいらっしゃいました。ネパールの紅茶についての情報を入手するため(社)日本ネパール協会からご紹介されたのがご縁です。

事務所では、ネパールのカンチャンジャンガ紅茶農園から届いたヒマラヤンワールドのオーガニックティーを紅茶の専門家の方にお出しするという一方で、少々緊張気味。召し上がっていただくときも、まじまじとその様子を見つめて、反応にひとつひとつとどぎまぎしましたが、フレッシュな風味、というお言葉をいただき、ほっと安心しました。

ネパール展にご協力することになり、展示するお面やネパールの地図、山の写真、ミティーラアートの大きな壁画、楽器など細かい打ち合わせを経て、次はネパールからの展示品の入荷。それも無事終わり、次は搬出、展示の準備です。

期間中は、館内で販売を行う夢市場さんのイベントコーナーにて販売させて頂けることにもなり、イベント前日にお邪魔してディスプレイも実施しました。初めて会うスタッフの方々も、みな親切にお手伝い下さったり、お食事を用意して頂いたり、博物館の学芸員の方も展示の準備に遅くまで奮闘してくださって、あたたかなお気持ちにほくほくしながら、静岡県の金谷駅をあとにしました。(北山詠美子)

## ◆お茶の郷の「料理教室」協力

去る6月16日、「お茶の郷博物館」主催、ネパリ・バザー口協力による「ネパールカレー教室」が金谷町で行われました。これは、ネパール展としてネパールの



ネパール展で展示されたミティーラアートの壁画。左側にパシュパテナート寺院の模型が見える。

お茶を中心に、市民の方々に生活・文化や歴史に親しんでいただくために行ったものです。

当日は、朝早く大船駅を出発したスタッフ・ボランティア、総勢15人の内8人が中心となり、この料理教室のお手伝いと講師を務めました。

地元の方を中心に、遠くは名古屋からも参加。参加者30名を含む総勢45人近い人達で会場は活気づいていました。丁度、ネパールからの研修生として来日中のネパリ・バザー口のカトマンズ事務所スタッフのジャリーナとボランティアの魚谷早苗が講師を務めました。女性起業家シターラさんが起したスパイシー・ホーム・スパイシーズとネパリ・バザー口が共同で開発した本場のカレー2種類や、アチャール、マサラティーなどネパール風味一色のメニューに挑戦しました。

初めての味や香りに目を白黒する人がいたり、切り方や炒め方も調理台ごとに異なります。それぞれのグループで味の違いがあることを知って驚く人もいました。普段、神奈川県地球市民プラザで料理教室を開催している私達にとって、また違う雰囲気や出来事を楽しませていただきました。

チョッと遠いけど、日頃と違った場所や人々との出会いと活動の機会を作って下さったお茶の郷博物館の館長さん、そして、きめ細かな配慮をして下さった博物館のスタッフの皆さんに感謝です。これからも、年1回の学習ツアーに絡めて、このような機会があれば交流を楽しみたいと思います。(太田昌治)



ネパール展の準備。ネパールでも、多くのご協力を頂いた。オーソドックスティーの生産者協会HOTPAの面々。場所は現地スタッフのジャリーナ宅。

## サンギータさんの奨学金と子どもたちの近況

魚谷早苗

今日は8月15日、カトマンズのホテルでこの原稿を書いています。ボランティアとしてネパリ・バザー口に関わっている私は、仕事の夏休みを利用してネパールを訪れ、9日間の滞在中に生産者の方たちや支援している子どもたちに会いました。

ビシュヌさんとムナさんというネパール人ご夫妻が運営しているモーニングスター・チルドレンズ・ホームとは、ネパリ・バザー口設立当時から、もう10年来的の付き合いです。当時18名だった子どもの数は、51名に増えました。大きくなって、ホームを独立する子も出てきましたが、今回の訪問の一番の気持ちはこの春10年生を終えた4人の女の子たちの進路です。

### ◆S L C (全国共通テスト)の結果を待ちながら

ネパールでは10年生を終えるとS L Cという全国共通テストを受け、その結果が進学や就職に大きく影響します。全国的には1-2割しか合格できない難しい試験で、ホームの4人も、一人は2級で合格したもの、2人は2科目を落として再試験を受け、結果待ち。一人は残念ながら不合格で、来年受けなおすそうです。

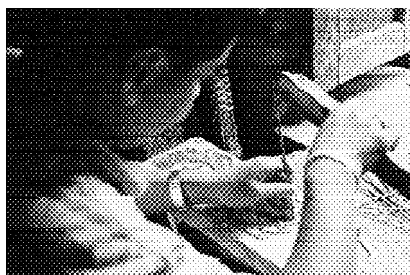
合格したビマリさんは看護婦になるために今週の土曜日にルンビニの近くの看護学校へ、泊りがけで入学試験を受けに行きます。追試の結果待ちの二人は、一人は看護婦、一人は教師になることを希望していて、どの子も無事に受かることを祈っています。

沢山の子どもたちを育ててきたビシュヌさんですが、大きくなった子どもたちが将来はビシュヌさんのような生き方をしたいといって、ホームを手伝ってくれるのが、何よりの喜びなのだそうです。

### ◆ホームから自立したアルジュン君の生活の様子

ホームから自立したアルジュン君、レベッカさんの兄妹ともネパールに来るたびに会っています。アルジュンさんは4年ほど前から出版関係の仕事に就き、小さな部屋を借りて暮らし、ホームで10年生を終えた妹を引きとって一緒に暮らしています。20歳過ぎの若者が、少ない給料で二人の生活をまかなうのは大変です。助け合ってがんばる二人がスキルアップできるよう、学費支援をしています。

アルジュンさんは毎朝6時から9時半まで大学のモー



スタンプ職人、シディマンさん



10年前の子どもたち。

ニングコースに通い、休むまもなく10時から5時は職場へ行きます。レベッカさんもカレッジ（日本の高2、3年生にあたる）で商業を学んでいます。もうすぐ大学で試験が始まるので、試験勉強にも忙しいアルジュン君でした。

### ◆新たな奨学金の開始

今年から新しい奨学金も始めました。この10年、ネパリ・バザー口が木彫りスタンプをオーダーしてきたシディマンさんの娘、サンギータさんの学費支援がその一つです。彼女は成績優秀で、家族を助けるためにしっかりした職に就きたいと進学を望んでいましたが、家の経済状態から諦めかけていました。S L Cを1級でパスした彼女の未来を応援し、看護学校の学費を支援することにしました。彼女が希望する公立看護学校の入試は冬ですので、現在彼女は看護予備校に通い、カレッジやコンピュートースクールにも通っています。

カレッジは、入試の成績が優秀でしたので学費免除です。毎朝6時～10時まで看護予備校で保健科学や生物学、化学などを学び、そのあと10時から4時まではカレッジ。5時から7時までコンピューターを習い、家に帰ってから8時から10時まででは予習や復習をするという猛勉強ぶりです。予備校やカレッジを案内してもらいましたが、ほんの15分という道のりが実際はかなり遠く、毎日この道を歩いて通っているのかと驚きました。カレッジの図書館で本を借りて持ち帰り、家での勉強に役立っているそうです。

遠く離れた東ネパールの紅茶農園K T Eでの奨学金も始まり、子どもたちが学校に通い始めました。KTEではこれまでも独自に1家庭1人までの奨学金支援はしてきましたが、その資金不足を補い、すべての子どもが学校にいけるよう援助をスタートしました。これには、神奈川県立総合高校の生徒たちも、コンサートを開いて資金を集め、協力してくれています。この春から140名以上の子どもたちが新たに学校に通い始め、現在、子どもたちの背景や将来の希望などを調査したプロフィールを作成中です。

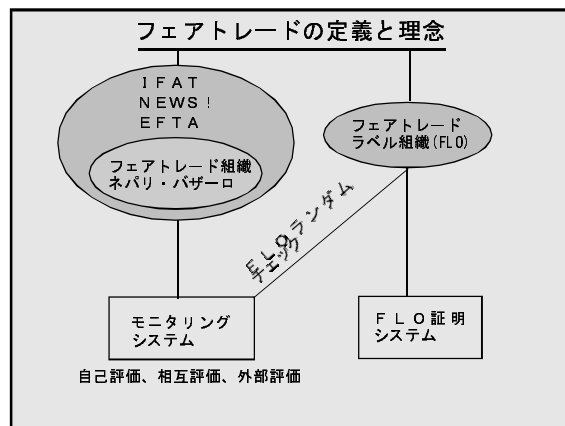
### ◆10年の活動を思う

この10年、様々な形で子ども達の教育に関わり、私たちも多くを学んできました。これからも、子ども達本人、子ども達を見守るネパールの方たち、支援活動を支える日本のメンバーで、情報や意見を交換し合い、協力しあっていきたいと思っています。



## FINEの新しい動き

土屋完二



モニタリングの考え方

## ◆統一フェアトレード基準の動き

ネバリ・バザーロが属している国際フェアトレード組織 IFAT では、他の欧州のフェアトレード組織、EFTA、NEWS!、FLO と協力しながら、今まで夫々に定めていた基準を統一する話し合いをしています。FINE は、FLO、IFAT、NEWS!、EFTA の 4 つの頭文字で、欧州に事務局がある国際フェアトレード組織ネットワークです。

現在の IFAT が定めている実践規則 (Code of Practice) 9 条を改めて統一した 8 つの指標からなるフェアトレード基準とするものです。その状況を確認するために 3 種類のモニタリングがあります。生産から、輸入、販売まで関係する組織が協力しあって、フェアトレードの社会的信用を高め、市場を広げることで、貧困をより減らして豊かな社会を築きたいと願っています。この方式は、最終決定されたものではありません。試用して改善、開発している段階です。

注) フェアトレード基準：ホームページ (P12) 参照

## ◆フェアトレード・ネットワークの枠組み

フェアトレードは大きくわけて、2 種類の形式にわけられます。フェアトレード団体として、自らその活動を担っている組織です。もうひとつは、一般市場の企業がより参加しやすいように、有機証明のようにフェアトレード商品を用いた製品にフェアトレードマークの表示認可をする組織です。

前者は、IFAT、NEWS!、EFTA、そして後者が FLO です。FLO の活動は、ラベル表示運動とも言われ、市民の目に触れる機会も多く、わかりやすい運動でもあります。カトリック系の教会組織の中、如何に社会の貧困問題に貢献できるかを考える人々が中心となり発展してきたトランスフェア運動が背景にあるので、イタリアではこの動きが目立ちます。また、アメリカでも、このトランスフェア運動が盛んで、2001 年の情報では、スタッフは事務局長を含め 8 名で、契約は、スターボックスを含む輸入商社、焙煎など、小規模農家から

直接買上げしてもらう方式で 95 社にのぼっています。中間搾取をなくし、直接取引の橋渡しをするわけです。本部は、ドイツにあります。取り扱い品目は、紅茶、コーヒーを含む農産物に限られています。問題がないわけではありません。大きな企業が、その 1% 程度の市場をフェアトレード生産者に開放することで企業イメージの向上を図るので、他の部分が蓋されたままになるからです。それは、FLO 自体の悩みでもあります。少しでも従来型の市場形成の中にフェアトレード商品が入り、消費者意識も向上していくので、肯定的意見が多く聞かれます。

## ◆モニタリングの仕組み、自己評価

農産物の認定などに比べ、ハンディクラフトは、その商品としての寿命が短く、種類も豊富です。FLO の仕組みでは、時間もお金もかかり、小規模生産者を寧ろ締め出すという結果を招きます。

そこで、自らがフェアトレードのネットワークである IFAT では、自分たち自身をどのように客観的に評価し、信頼を得るかが課題でした。欧米日に所属する IFAT メンバーが、電子メールで情報交換しながら 3 年前のイタリアのミラノ国際会議でその原案を提出し、そこで、参加団体を 10 のグループに分けて討議をしました。小さな生産者は数も多く、誰が評価できるのか、ということが一番の課題でした。

そこから提案されたのが、自己評価の考え方です。ある指標に照らしながらそれを実践している団体自身が、消費者、スタッフ、お店の方の意見も交えて評価をしていく方法です。

## ◆外部モニタリングの導入

自己評価は、現在、IFAT メンバー全員が実施している事項です。今後は、更に、主なる生産者との相互レビューと、IFAT 内にモニタリング委員会を作り、調査と評価をして行くことを考えています。その内の 5-10% を FLO を含む外部機関のモニタリング協力を得ることも検討課題です。

市民の協力を得て、小規模で力の弱い生産者、農民に貢献し、この地球上の貧困という社会不安を少しでも減らしたい。その願いに向けて、真剣に取り組んでいます。



国際会議で協議している様子



## 沖縄から ネパリでの研修を終えて①

大城 あけみ

大城さんは（財）沖縄県産業振興公社のグローバル産業人材育成事業に応募して、2002年2月14日から1ヶ月間、フェアトレードのお店「CAFE VOYAGE」を開く研修のためにネパリ・バザーの事務所へ来られました。ちょうど2002年春夏のカタログ、ニュースレターの発行、全国でお店を開いている方への展示会や一般市民に向けた公開セミナーの準備に忙しい日々でした。全国から集まっていたお店の方や、日頃から関わりのある地域福祉作業所の方、フェアトレードの他団体の方と、出会いも多く、実践的な研修としては期間は短いものの、そこから得たものは大きかったようです。

研修期間中には色々な方と出会う事ができ、フェアトレードについてばかりではなく、障害者の雇用など幅広く学ぶ機会も頂きました。ネパリ・バザーでこそできた、という経験も多かった1ヶ月間でした。

2月に行われた公開セミナー、「ネパールのカンチャンジャングラ紅茶農園とその社会への貢献」のディリーさんの講演会の際には準備から参加でき、商品のひとつひとつを手にとりながら現地の人々の生活や技術、手作業の苦労話などをスタッフから聞き、支援の大変



開店したお店  
CAFE VOYAGE  
(カフェ・ボヤージュ)  
の前で

901-0403  
沖縄県島尻郡東風  
平町世名城1509-2  
TEL:098-998-9102

## CAFE VOYAGE 訪問記

阿部 陽子

ネパリ・バザーのお店と出荷を担当している阿部が沖縄の旅行に合わせて、大城さんのお店を訪ねました。

初夏の沖縄、刺すような強い日ざしのなかを大城さんのお店「CAFE VOYAGE」にお邪魔して来ました。那覇から車で約30分ほど南に走ると、風景はだんだんとのんびりした雰囲気になっていきます。「なんだかアジアを感じるなあ」と沖縄のスローな空気を満喫しているうちにお店に着きました。

沖縄の木を使った木工のギャラリーと、カフェが一緒になった建物に入ると木のいい香り～！が、まず出迎えてくれます。カフェでは大城さんセレクトの雑貨（もちろんネパリのフェアトレード商品もあります）が置いてあり、お手製のネパールカレーやケーキを楽しみながら、ゆっくりとお買い物できる空間です。私たちもチキ



直営店ベルダで研修を受ける大城さん

さを実感しました。商品の出来あがる過程を現地の生産者から直接聞く事ができたので、今、沖縄のお店にいらっしゃるお客様に商品の説明や背景についてお話しすることが出来ます。時には笑いながら「こんなに苦労してできるんですよ。」と、日本とネパールの生活環境の違いを説明し、フェアトレードという活動の必要性をお伝えしています。

3月半ばに研修を終え、5月3日のオープンを迎えるまで、予定は未定、変更と混乱しながらもどうにか開店することができました。お店はかなりの市外地ですが、自然に囲まれた静かな落ち着いた場所です。しかし、日々草刈りや、我が家のようにやってくる蟻、虫たちと戦いながら「共存、共存」とお客様から励まされながら、開店以来次から次へと起こる問題に取り組んでいます。「フェアトレードって知らなかったさー」と支持してくださる方も増え、うれしさと同時にもっと多くの人へ伝え、理解してもらうにも勉強会を開きたいと思い、今はその準備に追われています。沖縄の「ゆいまーる」（助け合い）を合言葉に世界がいつまでも平和であるように願っています。研修を受入れて頂いた土屋代表をはじめスタッフの皆様に感謝します。

ンカレーを食べながら、おしゃべりに花を咲かせました。黄色いごはんは「うこん」を入れているとのこと、さすが沖縄の力！を感じました。観光客だけでなく、地元の方も気軽に寄れる、おらかな大城さんらしい素敵なお店でした。



カフェ店内の様子。左が大城さん。右は阿部



## ネパリでの研修を終えて②

ネパール現地スタッフ ジャリーナ・シュレスタ



左上・青山のお店で試食販売  
左下・平塚の七夕散策  
右上・セミナー後の交流  
右下・ネパリ事務所で昼食

今年の5月2日より7月28日まで、日本の市場を知り、より品質を向上させることを目的として、ネパール現地スタッフの3ヶ月間の研修を行いました。これだけ長い研修は、私達にとっても初めてでしたが、同じ目的に向かって働く仲間として大変良い共同体験の機会ともなりました。1年間現地で勉強した彼女は、以下、日本語で今回の滞在の感想を書いてくれました。

### ◆夢のような日本での研修

ネパールのような発展途上国の女性は外国に行く機会がなかなかありません。それは、その国の社会構造に最大の原因があると思います。ネパールでは女性が夜遅くまで外出していることを良く思いません。女性が早く家に帰ってこないとなれば家族は心配し、友達や親戚に電話してしまいます。ですから女性が一人で外国に行くとなると、家族や周りの人はとても心配します。また、ネパールの経済状況も理由のひとつです。

私の場合、ネパールの中流階級に生まれ育ちました。家族に、学費や生活費を頼っていた私が、外国に研修に行けるなんて夢のようでした。以前私の姉が日本にネパリ・バザーの研修で行ったことがあったので、私の場合もすぐ家族の理解を得ることができました。

### ◆驚きと感動の研修を終えて

もうすぐ3ヶ月間の研修が終わります。日本に来てたくさんの方のことを学びました。「私はネパール人です、日本人です」という考えを無くし、「同じ世界に住んでいる、同じ人間です」という社会を作らなければならないと思います。世界では、争いが絶えなかったり、経済的な格差があったり、と大きな壁があります。その壁を壊してみんな一緒に幸せな生活ができれば、と思います。

ネパリ・バザーでの研修では、ネパールから着いた商品をお客様にお届けするまでの過程を実践の中で学びました。お客様に商品を出荷するときは慎重に検品します。そのときたくさんのお客様が不良品となっていました。それは、私にとってとてもショックでした。

ネパールに戻ったら、この経験を生かして生産者に日本の厳しいマーケットのことを伝え、品質の良いものを作れるように、導いて行きたいと思います。

カンチャンジャンガ紅茶農園の子どもたちに対する奨学金が、今年の6月からスタートしました。それをサポートするのも私の大切な仕事のひとつです。

これから私がネパールで仕事をして行く中で、皆様のアドバイスとご意見が必要です。どうぞ宜しくお願いします。

最後にネパリ・バザーのスタッフ、ボランティアの皆様色々なことを教えて頂き、家族のように接してくれて、心から嬉しく思います。広田先生（日本語の先生）にもお世話になり、有難うございます。

どうぞこれからも宜しくお願いします。



左上・商品部で出荷  
左下・学校の文化祭で交流  
右上・専門家による手織り布の品質講義  
右下・学校訪問交流

## ネパールカレーのレシピ募集！！

採用の方全員に、マサラ3種類の詰め合わせプレゼント！  
締切：2002年10月31日



## ポストカード販売！

今年の6月に、静岡県金谷市にある「お茶の郷博物館」でネパール展が行われました。それを記念して作成したポストカードのセットを販売します。全額、子ども達の奨学金(KTEとLepcha)として使われますので、是非、宜しくお願い致します。6枚組1セットになっています。

### 「ネパール展絵ハガキセット」 写真コンテスト入賞作品から 6枚1セット

制 作：お茶の郷博物館  
販 売：ネパリ・バザー  
定 価：200円(税別) 9-0030



ベルダでは、国際協力やフェアトレードについて共に考えていくために、また、協力の対象となっている国々の文化的すばらしさをご紹介しますために、様々なイベントを行なっています。

「手漉き紙とフェアトレード」

- 手漉き紙で包む光、空間、フェアトレードで創る安全な住まい -

9月29日(日) 13:00-16:30

場所: あ〜すぶらざ

PART I: 女性起業家協会(WEAN)代表でネパール・ウーマン・クラフト代表のシャンティ・チャダさんを招き、山深いところで作る手漉き紙の生産者の様子、最近のネパールの情勢をお伺いしながら、日々私たちにできることを考えていきます。

PART II:

自然素材、古材のギャラリーを運営する「住工房なお」鈴木直子さんをお招きして、環境に負荷を与えず健康にも良い住まい作りのお話を伺います。生産者に貢献でき、安全な住空間を楽しみながら、優しい社会創りをしていきませんか。ドイツの建築家はフェアトレードを意識し、社会と住宅の安全を考えています。

「フェアトレード学習会/ミーティング等のご案内」

10月 5-6日 国際協力フェスティバル

10月 12-13日 YOKE 際

12月 08日 ネパール料理教室

01月 26日 学習会

02月 23日 松本「女性の起業家とスパイス」

03月 23日 総会と学習会

04月 13日 料理教室

05月 18日 フェアトレードの日

「ベルダ」では、楽しい勉強会を連続で行ない気軽に参加出来るものを予定しています。みなさまの参加をお待ちしています!

至大船 至横浜

本郷台駅

地球市民かながわ  
プラザ2F

フェアトレードの  
お店 ベルダ

TEL: 045-890-1447

FAX: 045-890-1448

あ〜すぶらざ  
(愛称)



卸も全国的にしています!  
お問合せ下さい。

国際理解にお役立て下さい。通信販売カタログ

ネパリ・バザーロでは、ニュースレターの発行、フェアトレード関連の本の出版、市民の方々の国際交流、支援への理解を深める活動も行っています。また、フェアトレードの活動に広くご協力頂けるように、通信販売カタログを作成していますので、ご興味がある方はご請求下さい。また、確実に資料が欲しい方、内部勉強会の活動を知りたい方は、購読会員(切手相当の費用として、1,050円)の制度もあります。学校、教育機関へのフェアトレード商品の貸し出し、講演会、お話し会など、開発教育のご協力も実施しています。お問合せ下さい。

ボランティア募集!

イベントのボランティアをはじめ、地域研究と絵本を作る分科会、織と染めの分科会、インターネット分科会など、様々なボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

ネパリ・バザーロのホームページ・・・グループの設立からフェアトレードに関する情報紹介など分かり易く読めます。ご覧になってご意見をメールでどうぞ!

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

ポストカード販売! P11参照

今年の6月に、静岡県金谷市にある「お茶の郷博物館」でネパール展が行われました。それを記念して作成したポストカードのセットを販売します。全額、子ども達の奨学金(KTEとLepcha)として使われますので、是非、宜しくお願い致します。6枚組1セットになっています。

<編集後記>



ネパールの状況は決して良くはありません。今回の特集のような山岳部は食料も十分ではないところが多い。数年前に訪問したエベレストの麓、サンクワサバ。そこも今、食料が不足している状態です。でも、自然資源は豊富。再生産可能な植物(Non-Timber Forest Products)も豊富です。フェアトレードの必要性がここにはあります。もっと力をつけなくては。(完二)



世界中を熱い興奮の渦に巻き込んだサッカーのワールド・カップ大会。中継に夢中になりながらも私は、昨年暮れ、カトマンズの道路工事で大人に混じってツルハシを振るっていた少年の姿を思い浮かべていました。彼はテレビを観ることが出来るのでしょうか、友達とサッカーボールを追いかけることもあるのでしょうか。(万知子)



今年もネパールを訪問し、たくさんの方にお会いしました。都会に出てきて働くのではなく、それぞれが住んでいる村に産業があり、村を離れずに仕事ができ、村人自身の手で村を良くしていけることの大切さを語る人が多かったのが印象的でした。遠隔地の大事な産業である手すきの紙を製品化しているパワフルなシャンティさんと、9月のセミナーでまた日本でお会いできるのが楽しみです。(早苗)



先日、久々に地方の友達からの便りに「通信を見たよ」とのこと。今や、思わぬ所に広がる波紋(良いこと・悪いこと?)に気を引き締める思いです。(昌治)



山を越え、緑深い田舎に帰省しました。ネパールの奥地に似た田舎で、ゆっくりあわてないでがんばりよ!の言葉をかみしめてこの秋もがんばります。(詠美子)

発行: ネパリ・バザーロ/ベルダレルネーヨ

247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町 274-15

第2中山ビル 3階

Tel: 045(891)9939 Fax: 045(893)8254

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

E-mail: nbazaro@a2.rimnet.ne.jp

印刷: 社会福祉法人光友会神奈川ワーカーズショップ

2002年10月発行

発行責任者: 土屋春代

編集責任者: 土屋完二

編集スタッフ: 土屋完二 魚谷早苗

太田昌治 矢島万知子

北山詠美子

編集協力者: 他スタッフ一同